HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	逃婚歌集錦3
Author(s)	渋谷, 瑞江
Citation	北海道大學文學部紀要, 47(2), 1-20
Issue Date	1998-10-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33722
Type	departmental bulletin paper
File Information	47(2)_P1-20.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 47-2 (1998)

逃婚歌集錦 3

渋 谷 瑞 江

ここでは，トゥ（土）族とオロチョン（鄂倫春）族の歌を取りあげた。この二つの民族は，逃婚歌を採集した15民族☆1のうちでは異色の民族といえるだろう。これ以外は西南地域に居住する民族である。これに対して，トゥ族は西北部の青海省，オロチョン族は北方の黒竜江省に主に居住している。言葉の面からも，ほかの民族はほとんどがシナ・チベット語族に属しているのに対して，アルタイ語族に属している。

トゥ（土）族

青海省，なかでも西寧市互助土族自治県に集住し，一部甘粛省にも居住する。アルタイ語族モンゴル語派のトゥ語を話し，人口は1990年の時点で19万人あまり。モンゴル帝国時代の軍隊が定住してその祖先となったといわれる。現在は，農業を主な生業とする。

イスラム教を信仰する民族のただなかに住むが，ラマ教（チベット仏教）を信仰するモンゴルの意識の強い民族である。ラマ教を信仰していることもあり，言語の面でチベット語の影響が見られるという。民間伝承の面でも，チベット風の悲恋物語☆2が伝承されているなど，チベット文化の影響がみられる。一方，「花児（ホアル）」と呼ばれる，周辺のイスラム教を信仰する民族や漢族と共通の歌謡を伝承しており，チベット文化，イスラム文化，漢民族の文化の接点に位置する民族ととらえることもでき，興味深いものがある。

1958年『民間文学』第8期に掲載された「土族逃婚調」と，1965年同じく『民間文学』の第4期に掲載された「土族逃婚歌（青海土族民歌）」の二つの歌を集めることができた。

オロチョン（鄂倫春）族

興安嶺の山中に居住し，トナカイを飼い，狩猟生活を営んできた人々。現在では定住化が進んでいるという。中国以外にも，モンゴルやロシアにも居住する。アルタイ語族ツングース語派のオロチョン語を話し，人口は1990年の時点で7千人ほど。

短いものだが二つの歌を集めることができた。1963年『民間文学』第6期に掲載された「逃婚調」と，1980年『鄂倫春民間文学選』に掲載された「逃婚」である。リストには『中国地方歌謡集成』（1990，渤海文化出版公司）の「逃婚」が挙げてあるが，これは『民間文学』の「逃婚」をそのまま転載したものである。

ここで取り上げた歌は，他の民族と較べると全く違ったものである。他の歌はすべて相手があって駆け落ちをするという筋書きなのだが，オロチョン族のものだけが，押しつけられた結婚を嫌って逃げた先で出会った相手と結ばれるという筋なのである。一方，オロチョン族には「烏娜傑逃婚」という物語があり，こちらは想いあってはいるが障害があって結ばれない男女が駆け落ちをして最後は大団円となる物語である☆3。

注

☆1：渋谷瑞江「逃婚歌集錦1 ── リス族「逃婚調」」（『北海道大学文学部紀要』45-3，1997.3，pp.166-170），駆け落ちのうたリスト参照。

☆2：トゥ族で広く伝承されていた話で，ここで取り上げた歌の中にもこの物語の主人公が歌われている。後出の「逃婚調」の原注5はそのあらすじである。『土族撒拉族民間故事選』（1992，上海文芸出版社）にも「拉仁布和琪門索」（pp.133-145）という題名で掲載されている。その末尾の「附記」に，1960年代から4種類の作品が発表されたと記されている。

☆3：注1のリストに掲載したものは，隋書今整理『鄂倫春族民間故事』（1980，黒竜江人民出版社，pp.127-138）からの転載である。

トゥ族

a．トゥ族逃婚調

許英国　捜集

民間文学　1958 年第 8 期　pp.72-75

男：門前頭的咕咕鳥[*1] 児呀，　門前のカッコウは，
已経喊了好機遭，　すでに何度か鳴いている，
牆根裏的山楊呀，　垣根のそばの柳の木も，
也抽出了緑油油的嫩苗苗。　つややかな若緑の芽をふいている。

十六七的大姑娘喲，　十六七の年頃の娘さんよ，
你怎麼心上不急躁？　あなたは心せかないのかい？
難道你看不見草木発了芽？　草木が芽吹いたのを見ないわけではあるまいに？
難道你忘記了春天已来到？　春がきたのを知らないわけではあるまいに？

女：園裏的厚氷雖説消了，　庭の厚い氷はとけても，
牡丹的枯枝児還老，　牡丹の枝は枯れたまま，
就在這個時候裏，　こんな時節には，
我早盼望着春天快些到。　春が早くやって来ないものかとおもうもの。

十八九的哥哥喲，　十八九のにいさんよ，
我的心思唯有天知道！　わたしの心は天だけがご存じです！
難道我不知道愛惜青春？　青春の日々を惜しまないはずがありましょうか？
難道我想望在河納吉[*2] 上要添上機個道道[*3]？　額に皺が刻まれるのを誰が望みましょうか？

男：我不愛金山，　わたしは金の山は好きじゃない，

我不愛銀河,	銀の川は好きじゃない,
我不愛牆高屋深,	塀が高くて庇が深いのも好きじゃない,
我更不愛什麼富窩窩★4。	金持ちはどんな奴でも好きじゃない。
我愛的只有一個人：	わたしが愛するのはただひとり：
她的性情格外温和,	そのひとのこころはことのほか穏やかで,
她対愛情的忠実就像吉然索★5,	愛に一途なさまはまるでチイランスオのよう,
姑娘喲, 只有你呀才能配得過！	娘さん, あなただけだよ, こんな人は！
女：我不挑他家道旺,	わたしはその人の家格につりあわない,
我不挑他財産多,	財産の額につりあわない,
我不挑他太麻利★6,	賢さにつりあわない,
我不挑他嘴会説。	能弁さにつりあいはしない。
我挑的人児是：	わたしにつりあっているのは：
能够老老実実的做活,	ほんとうのことを話してくれるひと,
能够像阿竜布一様的対待我。	アロンプのように接してくれるひと。
哥哥喲！站在我面前的人我就情投意和。	にいさん！わたしの前に立っている人こそこころの通いあう人なのです。
男：白天過了黒夜来,	昼が過ぎて夜がくる,
黒夜来哈心児裏慌,	夜がくると心は乱れる,
多天来聴不見妹妹的好回話,	もう幾日もいもうとの声を聞いていない,
半天的日子比十年長。	わずか半日が十年にも感じられる。
難道妹妹你把我忘？	いもうとよ, よもやわたしを忘れたわけではあるまい？
難道妹妹你半路上変了忝心腸？	道半ばにして心変わりしてしまったわけではあるまい？
不！妹妹的話比金子還貴重,	いいや！いもうとのことばは金よりも価値がある,
無論到啥時候一定有指望。	何かあったらきっと知らせてくれるはず。

女：整天価好比座針毯，　一日中織りかけの絨毯の前にすわって，
　昏昏沈沈胡思想，　あれやこれやと思い惑う，
　害人的耶洛[★7]多了嘴，　おせっかいな仲人は口がじょうずで，
　把狗糞説成上等好麝香。　犬のフンだって上等の麝香にしてしまう。

　我不管他説的天花転，　わたしは天から花が降るようなはなしは信じない，
　我不管他油嘴抹上糖，　次から次へと出てくる甘いはなしは信じない，
　我的霊魂早已給了人，　わたしのこころはもはや想い人のもの，
　鋼槍馬刀怎能来堵擋。　槍でも刀でも止めることはできない。

男：我端上飯碗児把個筷子忘，　わたしは茶碗は持ってきたけれど箸を忘れた，
　我去鋤草反而把鍬鞋抬上，　押し切りで草を切ろうとしてシャベルを持ってきてしまった，
　我過河不知道把鞋脱，　川を渡るのに靴を脱ぐことを知らなかった，
　我看見月亮的光気児当太陽。　わたしは月の光を太陽と勘違いしていた。

　我的心思比那菜子顆顆児砕，　わたしの心は菜種つぶのように粉々で，
　我的脳子比那筏子皮袋還膨張，　脳みそは筏につける皮袋みたいにからっぽだ，
　妹妹呀，我不怨你来但怨二爹娘，　いもうとよ，わたしはあなたの父さん母さんが恨めしい，
　為啥把賊耶洛的騙話児看得那麼香？　どうして仲人の口車に乗せられてしまうんだい？

女：賊耶洛喝了我家的湯，　仲人はわたしの家のスープを飲んでしまいました，
　叫他子孫三代害嗓瘡；　孫子の代までのろってやる；
　賊耶洛吃了我家的飯，　仲人はわたしの家のご飯を食べてしまいました，
　叫他一時三刻把腸子断！　絶対に許せない！

　我不吃饃饃[☆1]我不喝湯，　わたしはモモも食べなければスープも飲みません，
　我不穿衣裳我不下炕。　着物も着なければオンドルに座ることもしません。
　哥哥喲，烈火坑裏我跳裏，　にいさん，燃えさかる火の中でも飛び込みます，
　刀山尖上我也要上。　刀の山だって登ります。

男：黒風児刮着天気児変，　　黒い風が吹いて空模様が変わる，
一陣陣天也昏来地也暗，　　またたく間にあたりが暗くなる，
六月的河灘裏凍了氷，　　六月だというのに川は凍り，
三伏的庄稼霜殺干。　　三伏だというのに作物には霜の害。

我不怕它天爺塌来地開口，　　わたしは天が降ってきても地が裂けても怖くはない，
我不怕他四季顚倒皇上家的江山乱，　　季節がひっくり返ってお上の山や川がどうなろうと知ったことじゃない，
我只怕棒打鴛鴦両分散，　　ただおしどりが棒で打たれて別れさせられるのだけが心配だ，
思想起妹妹心痛爛。　　いもうとのこころの痛みが気がかりなのだよ。

女：我一只脚在陽間一只脚在陰槽，　　わたしの脚は片方がこの世でもう片方はあの世にあるのです，
我眼前死路多来活路少！　　目の前には死への道ばかり多く生き残る道は少ない！
哥哥喲，我陽世之間難見你的面，　　にいさん，この世であなたに逢うことはままなりませんでした，
死掉了也要変双鳥。　　死んだ後には双つ鳥になりましょう。

太陽落了月児上樹梢，　　陽が落ちて梢に月がかかりました，
再等上一刻生怕鶏児叫，　　これ以上待っていては鶏が鳴いてしまう，
我左思右想只有一条路，　　わたしはただひとつの道に思いをはせる，
要找我情哥哥同他把婚逃。　　いとしいにさんと一緒に駈け落ちしようと。

男：我脱掉皮襖戴上忈氈帽，　　裏毛の上着を脱いで古い毛皮の帽子をかぶり，
腰窩裏再別上一把満尺刀，　　腰にはもう一振り長刀をさす，
往妹妹的墻根裏走一遭，　　いもうとの家の垣根までやってきて，
看一看水色[★8]了把墻跳。　　背伸びして様子をうかがう。

不睁眼的哈巴児[★9]偏要叫，　　目も開かない子犬が吠える，
一急了樹枝児也声高，　　人と見るとますます吠え盛る，
脱下我的靴子浄脚児跑，　　わたしは靴を脱ぎ捨ててじゃれつかせる，
見一見妹妹死就心甘了。　　いもうとに一目逢えたら死んでもかまわない。

女：房子裏座的是娶親的人，　家の中に座っているのは嫁迎えにきた人，
院子裏囲的是跳舞[★10]的人。　庭にいるのはわたしの嫁入りを踊りで見送ってくれる人。
我擦掉眼泪陪笑臉，　わたしは涙をぬぐって笑顔を作り，
支開了家裏伴我的人。　言い訳をして人々から離れる。

打開箱子撿一身衣，　箱をあけて着物をあらため，
夾主襖[★11]児披身上，　綿入れの短衣を着る，
我人前頭装作上毛坑[★12]，　手洗いに行くふりをして，
一不見扁巴郎[★13]身子溜出了門。　人々を欺いて門から抜けだす。

男：我捂住嘴児不敢喘一口気，　わたしは息を殺し，
我扯長耳朶仔細聴，　耳をそばだてる，
離鶏叫的時候再不遠，　鶏が鳴くのも間近だというのに，
咋聴不見妹妹哭叫声！　いもうとの泣き声は聞こえない！

揙[★14]起了袖子手攀住樹，　腕まくりして木に登り，
抽出個刀子往房上奔。　刀を抜いて屋根に飛び移る。
猛聴見一陣怨腸声，　たちまち一陣の恨みの声がする，
真像是妹妹的叫苦声。　いもうとの苦しみの声そのものだ。

女：出来大門一看黒洞洞，　門を出て真っ暗闇の中を見る，
我弁不出那是西来那是東。　西も東も分からない。
怨一声哥哥你忘了我，　にいさんあなたはわたしを忘れてしまったの，
妹到了難中你咋不救命！　いもうとが難儀しているのにどうして助けにきてくれないの！

我挨着墻根摸着行，　わたしは垣根にそって手探りですすむ，
看不見路児気死人。　息を殺して待つはずの人はいない。
哥哥喲，你好比神仙来把我渡，　にいさん，神様みたいにわたしを救いにきて，
我転上八輩子記住你的恩。　そうすれば一生涯あなたの恩は忘れない。

男：一聴見妹妹的声音我狂跳，　　いもうとの声を聞いてわたしは飛び上がるほどうれしい，
心上的疙瘩児氷消了，　　心のかさぶたはすっかり消えてしまった，
妹妹喲，你別怨腸我来遅，　　いもうとよ，遅れたことを許しておくれ，
我来的比你更要早。　　あなたより先に来なければならなかったのに。

女：半夜三更往外逃，　　真夜中に駈け落ちする，
嘴裏冒烟心児又乱跳，　　のどはからからで心は早鐘を打つよう，
猛聴見哥哥叫一声，　　にいさんの声を聞いて，
我好像成了神仙上雲霄。　　わたしは神様になって空に昇るような気分。

男：手抓住妹妹泪水児像乱麻，　　引き寄せるといもうとの眼には涙があふれている，
有千言万語不知該説些啥。　　さあどんなことでも話してごらん。

女：我抱住哥哥渾身児抖，　　わたしはにいさんに抱かれて，
没説一句話児先喊幾個走！　　話すことなど後回しにして先を急ぎましょう！

男：妹妹喲，丈八的縄子我不怕綁，　　いもうとよ，八丈の縄に縛られるのは怖くない，
白蠟的杆子我能馱！　　鉛の棍棒でも耐えられる！

女：哥哥喲，先燒到眉毛得救眼前急，　　にいさん，先に目の前の火の粉をふり払いましょう，
你説我倆児跑到那裏去？　　わたし達がどこへいくのか教えてくださいな？

男：妹妹喲，前是黄河後是崖，　　いもうとよ，前は黄河の流れで後ろは崖，
看！一伙人又打上火把找你来！　　ごらん，若いのが松明を掲げてあなたを探しにきた！

女：哥哥喲，我倆児先跑到黄河口，　　にいさん，わたし達はまず黄河口へいきましょう，
把花鞋撩在河辺再逃走！　　刺繍の靴は河原にぬぎすてて逃げましょう！

合：黄河沿上把鞋撩，　　黄河の河原に靴をすて，

手搭手児往遠裏逃。	手に手をとって遠くへ逃げる。
天涯海角由我倆跑,	天の涯でも海の果てでもふたりは駆ける,
走上十万八千里哈誰知道！	十万八千里も行けば誰に知られようか！
我倆好比入海的竜,	ふたりは海に還った龍,
我倆好比出籠的鳥,	ふたりは籠から出た鳥,
天空任鳥飛,	鳥のように空を飛び,
海濶由竜躍。	龍のように海を駆けめぐる。

原注

★1：「咕咕鳥」とは，カッコウのことである。
★2：「河納吉」とは，額（ひたい）のことである。
★3：「道道」とは，顔のしわをさすことばである。
★4：「富窩窩」とは，金持ちをさすことばである。
★5：〝阿竜布（男）と吉然索（女）〟は，トゥ族に広く伝わる悲恋物語である。（ほかにも美しい恋のうたもあり，トゥ族の人々が大変好むうたである。）物語の筋は以下のようなものである。以前，山に阿竜布（アロンプ）という羊飼いの青年が，里には美しい羊飼いの娘吉然索（チィランスオ）が住んでいた。二人は知り合ってから，一年中一緒に楽しく歌いながら放牧をしていた。長い月日の間に，互いに想いあうようになっていった。二人は歌を歌いあって想いのたけを伝えあい，将来を約束した。二人は香草や欄の花をつみ，山頂で，天に向ってとも白髪を誓う〝煨桑〟を行った。

しかしアロンプの家は貧しく，暮らしの見通しは立たなかった。一方，チィランスオの家はというと，逆に金持ちだった。彼等の噂がチィランスオの嫂（あによめ）の耳に入ると，彼女は一計を案じ夫を挑発して二人の仲を裂こうとした。兄はずるい金持ちの典型で，妻の話を聞き，たちまち計略を思いついた。彼はチィランスオを家に閉じ込め，彼女の着物を身に付けて，刀を持ち山へ羊の放牧に出かけた。アロンプはそれを見破ることが出来ず，兄に刺されてしまった。アロンプはいまわのきわに，感きわまった声でチィランスオに向けて歌った。「闇夜にチィランスオの声が聞こえて，わたしはうれしい。話したいことは山ほどあるのにうまく言えない。わたしの命はわたしたちの愛情のためにある。……家の庭から煙がのぼったら，わたしが死んだしるし……」アロンプの傷は重く，次の日に死んでしまった。

チィランスオはアロンプの火葬にやって来て，泣きながら歌い，金の首飾りや身に付けた衣服を火の中に投げ込んだ。そして最後にその身を炎の中に投げ込み一緒に焼かれてしまった。二人が死んだ後，火葬した場所から二本の柳の木が生えてきた。し

かしチィランスオの兄がそに木を切ってしまった。木が倒れようとしたとき，その根元から二羽の鳥が飛び出し，トゥ語で「二つの眼」と鳴いた。二羽の鳥はいつまでも一緒に空を飛び，永遠に離れなかった。

★6：「麻利」とは，有能の意味である。
★7：「耶洛」とは，仲人（なこうど）のことである。
★8：「水色」とは，様子をうかがうという意味である。
★9：「哈巴児」は，子犬のことである。
★10：「跳舞」とは，トゥ族の習俗である。嫁入りの日に，親戚や友人，近隣の人々がやって来て，踊りを踊って送り出すというものである。
★11：「主襖」とは，短い綿入れの上着である。
★12：「毛坑」とは，便所のことである。
★13：「扁巴郎」は，ななめという意味である。
★14：「揙」とは，巻くという意味である。

訳注

☆1：「饃饃」は，「饅頭（マントウ）」に同じ。マントウは，味のついていない（あんの入っていない）まんじゅうのこと。

b．トゥ族逃婚歌（青海トゥ族民歌）

席永信　捜集

民間文学　1965年第4期　pp.126-130

男：石崖根里的白楊樹，	崖の柳の木には，
抽出了緑油油的嫩苗；	緑したたる若芽が吹いた；
毛吉★1上的布谷鳥叫了，	マオチ山の郭公が鳴いて，
種田的時節到了。	田畑を耕す季節がやってきた。
妹妹喲，	いもうとよ，
你怎麼心里不着急？	あなたは気がせかないのかい？
難道你看不見草木発了芽，	まさか芽吹く草を見ていないんじゃないだろうね，
難道你忘了春天来到。	まさか春がきたのを忘れているんじゃないだろうね。

女：春雪圧不住嫩草芽，　春の雪は草の芽吹きを押さえきれず，
春風吹不掉山里花，　春の風は山里の花を吹き飛ばすことはできず，
陰山的白雪化成水，　北の山の雪が溶けて水になり，
陽山的青草露了芽。　南の山には若草が芽吹きました。
正是這個時節喲，　まさにこの季節こそ，
我盼着春天来到。　私が待ち焦がれていた春です。
難道我不知道愛情的青春，　私が愛の季節を知らないはずがありましょうか，
難道我等着戴天頭★[2]。　私が戴天頭の儀式を待っているなどということがありましょうか。
哥哥喲，　にいさん，
我的心只有天知道。　私の心は天の神様だけがご存知です。

男：我不愛金山，　私は金の山は好きじゃない，
我喜歓的是草山；　私が好きなのは草の山；
我不愛銀河，　私は銀の河は好きじゃない，
我喜歓的是泉水；　私が好きなのは澄んだ泉の水；
我不看她長的俊来穿的好，　私は彼女がこんなに綺麗になるなんて思ってもみなかった，
我愛的陽世上只有她一個。　私がこの世で愛するのは彼女ただ一人。
她的心腸比得上切門素★[3]。　彼女の心はチエメンスゥより美しい。
妹妹喲，　いもうとよ，
你才是我真正心上的人。　あなたこそ私が心から愛する人。

女：有銭有勢的我不愛，　お金や勢力のある人は好きではありません，
有銭人没有好心腸。　お金持ちに心根の善い人はいません。
我心裏選上的人，　私が心をこめて選んだ人は，
頭頂上没有一間房，　頭の上には屋根もなく，
脚底下没有一塊地，　脚の下には一かけらの土地もない人，
他的心好像拉仁布☆[1]。　でも心はラレンプのよう。
姑娘家心裏的話呀，　娘が自分の心をうちあけるときは，
不好意思説出。　とても恥ずかしいのです。

哥哥喲，	にいさん，
我心上選的只有你一個。	私が心をこめて選んだのはあなたなのです。
男；山裏的青草干了，	山の草は枯れ，
樹上的葉児落了。	木の葉は落ち尽くした。
冬天的日子比夏天還長，	冬は夏より長く，
西辺的太陽為啥不動弾？	西に傾いた太陽はどうして勢いがないのだろうか？
三天不見妹妹的面，	三日いもうとに逢わないと，
一天的日子比一年還長，	一日は一年よりも長く思える，
莫非妹妹你把我忘，	いもうとよ何があっても私を忘れないでおくれ，
難道你変了熱心腸，	あなたがその熱い心を変えたりしたら，
千思万想也心不甘。	とても耐えられない。
女：一天的日子盼不黒，	この一日が暮れなければいいのに，
黒夜裏盼不出明月亮。	暗い夜に明るい月など出なければいいのに。
誰知道青天裏出了黒雲彩，	誰が青空に暗雲が湧き起こる事を知っていましょう，
誰知道山後狼等羊。	誰が山の裏側で狼が羊を待ち伏せているなんて思うでしょう。
害人的若日娃[★4]来多嘴，	お節介な仲人がやってきてまくし立て，
他把牛糞説成好麝香，	牛の糞すら麝香のように話す，
阿爸上了他的当。	父さんはすっかりそれを信じてしまった。
我不管他説的天花転，	私は仲人の甘い言葉なんか信じない，
鋼槍馬刀档不住我，	鉄砲も刀も私を阻むことはできない，
鉄鏈捆不住我的心！	鉄の鎖だって私の心を縛ることなんかできないのよ！
哥哥喲，	にいさん，
我身子投進了火坑。	私は火の中にこの身を投じます。
男：我端起碗来把筷子忘，	私は茶碗は持って来たけれど箸を忘れた，
我去鍘草手抬上銑，	私は掌を押し切りにして草を切ろうとしている，
我的心比菜子顆還砕。	私の心は菜種の粒よりも細かく砕かれる。

刮起風来天気変，　風が吹いて空模様が急に変わる，
天也昏来地也暗，　空もあたりも真っ暗になる，
我不管他天塌和地裂，　天が落ちようが地が裂けようが構わない，
我不怕他皇上家的江山乱，　お上の山や川がどうなろうと知ったことではない，
就怕我和妹妹両分散。　ただいもうとと引き離されることだけが気がかりだ。
妹妹喲，　いもうとよ，
一根鉄縄綁在你身上，　鉄の鎖であなたの身体を結び付け，
一顆心爛在我心上。　私の心の上であなたの心を輝かせたい。

女：若日娃吃了我家酒，　仲人は私の家の酒を飲んでしまいました，
叫他一時三刻腸子断。　地獄に突き落とされた気持ちです。
他騙了阿爸的心，　仲人は父さんをだまして，
他買了我的身，　私の身柄を買ったのです，
我吃不下飯来喝不下湯，　私は御飯も汁も喉を通らない，
我心裏有你就有胆量。　私にはあなたがついていると思うと勇気が出てきます。
刀尖上我也上哩，　刀の切っ先だって私は登ります，
火炕裏我也上哩。　燃えさかる火の中だって私は飛び込みます。
太陽剛剛落山，　山の端に陽が沈もうとしている，
納什金来到大門上。　結納が来てしまう。
我一只脚踏有人世，　私の片方の脚はこの世に，
我一只脚踏進九泉。　もう片方の脚は黄泉の国にあります。
眼前是死路多来活路少，　目の前には行きどまりの道ばかり，
哥哥喲，　にいさん，
従今難見你的面。　これからはあなたにも逢えなくなってしまう。

男：天上的鳥児双双飛，　空を飛ぶ鳥はつがいで飛ぶ，
山上的野鶏対対跑，　山の雉はつがいで走る，
焼炕炕座的只有我一個。　でもオンドルの上に座っているのは私一人だけ。
天上的星星出斉了，　空の星が出そろったら，

月亮還等不出来，　　月がまだ出てこないうちに，
脱掉我的破皮襖，　　裏毛の上着を脱ぎ捨てて，
戴上我的旧氈帽，　　古い毛皮の帽子を頭に載せて，
黒夜翻上几道嶺，　　暗い夜に乗じて山道を走り，
連夜赶到妹妹家。　　毎夜いもうとの家へ行く。
心急了脚不往前走，　　心せいて足ももつれる，
人慌了山頭也高了。　　心せく程に山の頂きはいや高くなる。
妹妹喲，　　いもうとよ，
只要見你的面，　　あなたに一目逢うためならば，
累死哥哥也心甘。　　どんな苦労もいといはしない。

女：円槽上栓的棗紅馬，　　飼い葉桶に栗毛の馬が繋がれている，
納什金端酒找鞍子，　　結納金で酒と馬の鞍がもたらされた，
糧斗上阿爸綁起了紅筷子，　　父さんが升の上に紅い箸をくくりつけ，
油灯上阿媽点起了双捻子。　　母さんが二本の灯芯に火をともす。
眼泪流在地上，　　涙が流れおちる，
我収不回来，　　私はもう後戻りすることはできない，
痛苦装在心裏；　　心の中は苦しみでいっぱい；
我説不出来，　　私は話すこともできない，
晴天裏盼雨白盼哩。　　晴れた日に雨を望んでもそれはかなえられないこと。
哥哥喲，　　にいさん，
今晩夕盼你盼干哩。　　今晩あなたが事を起こして下さることを願っています。

男：野鶏飛進馬蓮灘，　　雉がネジアヤメ☆2の茂みに飛びこむ，
馬蓮花遮住了野鶏，　　ネジアヤメの茂みは雉を隠し，
只聴見它的叫声，　　ただ鳴き声が聞こえるだけで，
看不見它的身影，　　その姿は見えない，
如今你好像高園中的牡丹，　　今のあなたはまるで高い囲いの中の牡丹の花，
只聞見香味看不見花。　　ただ香りが漂うだけで花は見えない。

莫非你見了銭財把我忘，　沢山の財産を見せられても決して私を忘れないでおくれ，
難道前世裏我倆没姻縁？　私たち二人に前世の因縁が無かったなんてことはあるまい？
天上的織女，　天の織女神も，
地下的牛郎，　地の牛郎神も，
喜鵲姑娘搭起了天橋，　カササギ☆3が天に橋を架け，
天河辺上他倆相見；　天の川でめぐり逢う；
今晩夕我倆本来不遠，　今夜の私たちは離れているわけではないのに，
就是不能相見。　逢うことができない。
妹妹喲，　いもうとよ，
不是你家的墻高，　あなたの家の塀が高いのではなく，
就是你家的狗厲害。　あなたの家の犬が問題なのだよ。

女：月亮光照在窓子上，　月が窓辺を照らしている，
我只当了日頭出了山，　私は山の端から陽が昇ったら，
阿媽拿起了上馬婆子。　母さんに馬の背に乗せられる娘。
我一肚子苦水没処吐，　私にはお腹の中の苦い水を吐きだす場所もない，
要是老早戴了天頭，　もっと早く天の神様にお願いしていたら，
如今也到不了這一場。　こうはならなかったでしょう。
抜草的時候，　草取りの時には，
我不怕太陽熱，　どんなに陽が照りつけても平気だけど，
碾場的時候，　脱穀の時には，
我也不怕冷風吹，　どんなに風が冷たくても平気だけど，
我怕的是阿爸的厲害。　ただ父さんが怖いだけ。
哥哥喲，　にいさん，
生成個女子真可怜。　女に生まれるのは本当に哀しいこと。

男：城墻上跑馬路不通，　城壁の道は通れない，
今晩夕叫你永不通，　今晩はあなたを呼んでも通じない
心裏的山歌唱不出来，　心のうちの山歌☆は歌えない，

話到口辺説不出来，　喉まで出かかった言葉も出てこない，
想見妹妹難上難。　いもうとをおもえばおもうほどつらくなる。
妹妹喲，　いもうとよ，
你死了我也活不了，　あなたが死んでしまったら私も生きては行けない，
不管老天爺給啥命，　天の神様がどんな運命を与えていようとかまうものか，
闖下啥禍哥哥当。　災いは私が受けてたとう。

女：樹上没有樹枝，　木に葉が茂っていなければ，
喜鵲搭不成窩，　鵲は巣を作ることはできません，
河裏没水，　河に水がなければ，
魚娃児命難活。　魚の子は生きていけません。
想起哥哥心象刀子刮，　にいさんの心をナイフで切りとって，
一軲轆起来穿衣裳。　くるりと巻いて着物の下に隠したい。
人前頭装着上茅房，　厠に行くふりをして，
人不見便悄悄溜門走。　人の見ていない間にこっそりと逃げましょう。
哥哥喲，　にいさん，
你今天好好把我救，　今日こそ私を救って下さい，
我八輩子忘不了你的恩。　このご恩は決して忘れません。

男：天上的雲彩来来往往，　空の雲はやって来てはまたかえっていく，
太陽照常亮哩，　お日様はいつでも明るく輝く，
夏天的日子雖然好長，　夏の日は長いとはいうものの，
日頭総要落山哩。　陽はいつか山に落ちる。
阿哥見了妹妹面，　私はあなたの顔を見ると，
心裏的氷疙瘩消哩，　凍った心も融けていくようだ，
你甭怨我来的遅，　遅れたことを恨みに思わないでおくれ，
我従天黒等到天快亮，　日暮れてから夜明けるまでかかっても，
千言万語説不尽，　千の言葉万の語句でも語り尽くせない，
捆上衣裳把路赶。　荷物をまとめて出発しよう。

女：冬天穿上皮襖，	冬に裏毛の外套を着るときには，
不要忘掉擋羊人。	羊を屠殺する人の事を忘れてはなりません。
我們逃婚的時候，	私たちが駈け落ちをする時には，
不要忘掉追赶的人，	追手の事を忘れてはなりません，
上山山也高，	山に登れば山はいや高く，
下川河也寬，	河を下れば河幅はいや広い，
我倆跑到黄河辺，	私たちは黄河のほとりまで行って，
花鞋丢在河辺上，	河辺に靴を脱ぎすてて，
再爬上崖根的山羊路。	そして崖を縫う山羊の道を登りましょう。
合：前世裏我倆有緣，	私たちには前世の因縁があった，
今世裏遇了，	そしてこの世で出会った，
只要我倆在一起，	二人が一緒でさえあれば，
身子爬在氷灘上，	この身は氷河の上にあっても，
心裏比焼炕炕還熱。	心はオンドルよりも熱く燃える。
翻過一嶺又一湾，	峰を一つまた一つと越え，
走過一嶺又一川，	河を一つまた一つと渡る，
只要我倆在一起，	二人が一緒ならば，
跑到天辺不嫌遠。	天の涯でも遠しとしない。

原注

★1：「毛吉」とは土族の神山である。

★2：「戴天頭」とは土族の習俗である。天を夫とみなし，夫がいなくても結婚したと同等にみなす☆4。

★3：「切門素」は民歌の中の主人公の名である。彼は「拉仁布」とともに封建的な結婚に反抗する。

★4：「若日娃」は，仲人の意味である。

訳注

☆1：原注2参照。ラレンプとチエメンスゥの物語については，前出a．「土族逃婚調」の原注5参照。

☆2：馬蓮，アヤメ科の多年草。和名ネジアヤメ。学名はIris ensata。

☆3：「カササギ」，原文「喜鵲姑娘」。牽牛織女の物語では，織女が天の川を渡るときに鵲(カササギ)が橋になるという説がある。ここではカササギを女神のように設定して「喜鵲姑娘」と名付けたと思われる。(七夕伝承については，小南一郎『西王母と七夕伝承』(1991，平凡社) などに詳しい。)

☆4：トゥ族の婚姻習俗（成女式とする解釈もある)。旧時，女子が15才（18才とする報告もある）になると，親が主宰して大晦日の晩に天を夫と見立てて結婚するという習俗である。これ以後女性の性生活は自由となり，男性と同居し，子育てをして一家をなすことができる。(青海省編輯組『青海土族社会歴史調査』(1985，西寧人民出版社)・厳汝嫻主編　江守五夫監訳『中国少数民族の婚姻と家族』中巻（1996，第一書房）など参照)

オロチョン族

a．逃　婚

烏相葛唱　関守中・暴俠捜集

『民間文学』1963年第6期　p.89

『中国地方歌謡集成59　東北九省児歌民歌情歌』

渤海堂文化出版公司　1990年　pp.278-279

在甘河，有百戸人家住着，	甘河には，沢山の人が住んでいる，
爹娘把我許好多次，	父さん母さんはいつも私の言うことを聞いてくれたのに，
哪一回我都没有認可。	今回だけはどうしても納得できない。
爹娘生気了，打我罵我，	父さん母さんは怒って，私をぶちそして罵る，
我再也忍受不下去，	私はもう我慢できない，

領上胞妹離開了甘河。　　妹を連れて甘河から逃げだそう！

順着大河往上走去，　　大河を遡って，
従日出跑到日落，　　日の出から日の入りまで走ったら，
翻過了大興安嶺，　　大興安嶺までたどり着き，
来到了急流的諾敏河。　　諾敏河の急流までやって来た。

在諾敏河下游地方，　　諾敏河の下流には，
住着親兄弟両個，　　兄と弟が住んでいた，
哥哥叫温吉托，　　兄の名はウチト，
弟弟叫奔吉托。　　弟の名はパンチト。

我們姐妹看中了他們兄弟，　　私たち姉妹は兄弟に一目惚れ，
他們也留我們一起過活，　　彼らも私たちと一緒になりたいという，
明知道官家不許這様做！　　お上がこんなこと許さないのは知っている！

大山大河没攔住，　　高い山や大きな川には囲いはない，
怕死就没有好生活，　　いい暮らしは出来ないかもしれない，
没有半壺焼酒当財礼，　　壺半分の酒も蓄えられないかもしれない，
我們的胖娃娃也挺多。　　でも私達には丸々とした赤ん坊が沢山。

b．逃　婚

黒河文化局捜集
『鄂倫春民間文学選』張鳳鋳・蔡伯文整理
内蒙古人民出版社 1980 年　p.145

天辺飛来一片烏雲，　　空には一片の黒雲，
阿曼* 要我嫁給無縁的人。　　父さんは私を見知らぬ人に嫁がせようとしている。

喜鵲落在白樺樹上，　　カササギは白樺の木に住む，
有情的人児我才看得上。　　想いを寄せてくれる人でなくては。

海騮馬跑起来象風一様，　　海騮の馬は風のように駆ける，
我要和心上人飛向遠方。　　私は想い人と一緒に遠い所へ飛んでいこう。

原注

★　阿曼：オロチョン語で父親の意味。